

これからも、ずっと。

# FIELDING

NEC SOLUTION CREW

第51期

株主  
通信

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

## C O N T E N T S

トップメッセージ	01
増収増益へのターンアラウンドに向けた 経営戦略を推進します。	
第51期の業績と今後の計画	03
Fielding eye (51期のトピックス)	05
▶特集◀ FIELDING Close-up	08
業績の概況	09
連結財務諸表 (要約)	11
株式の状況	13
会社概要	14
アンケートのお願い	14

**NEC** NECフィールディング株式会社

<http://www.fielding.co.jp/>

証券コード：2322

# 増収増益へのターンアラウンドに向けた 経営戦略を推進します。

## 安定・堅実な成長に向けた基盤づくりを行いました。

2007年3月期は依然として企業間競争や価格破壊が継続する厳しい事業環境が続き、連結成績は売上高2,125億95百万円(前期比7.9%減)、経常利益85億32百万円(前期比17.0%減)と、3期連続の減収減益となりました。

しかし、減収の主要因は従来の構造的であったオープン化の加速などによる保守・修理サービスの売上減によるものから、付加価値の低い物品販売などの精査を行ったことによる一時的な要因に変化しております。

また、中間発表時の計画比では売上が伸び悩む中、プロアクティブ・メンテナンス事業での売上確保や原価

低減活動／経費節減への積極的な取り組みにより利益面で期待以上の成果が出たことは、2008年3月期につながるとみております。

## 増収増益へのターンアラウンドを目指します。

2008年3月期は減収減益から脱却し、増収増益に向けたターンアラウンドの年と位置づけ、中間発表時に示しました事業戦略に沿った施策を着実に実行していくことにより、堅実な成長を図ってまいります。

そのために、「保守事業改革の推進」や「NECインフロンティアシステムサービス株式会社の子会社化」を事業基盤固めの施策とし、増収に向けた活動と業務効率化によるコスト

削減活動を行ってまいります。

また、「Web販売“い〜るでいんぐ”での顧客拡大」や「フィールドイング・ソリューション注力領域の拡大」を事業拡大施策として、お客さまからのワンストップサービスへの要求にお応えする活動を行い、経営基盤である「CS(お客さま満足)向上とCSR(企業の社会的責任)浸透」へさらに注力してまいります。

## 2007年3月をもちまして創立50年を迎えました。

2002年9月に東京証券取引所市場第一部への株式上場を果たすとともに、日本経営品質賞の受賞や国際規格の各種マネジメントシステムの認証取得など、50年間にわたり、さま

ざまな活動に取り組むことにより、国内最大規模のITサポートサービス会社に成長してまいりました。

そこで、株主の皆さまの日頃のご支援に対し感謝の意を表するため、業績回復への着実な動きを確認した上で、記念の配当を検討しております。

今後もCSとCSRを両立する事業を通して「安定・堅実に成長する企業」を経営目標の一つとして活動してまいりますので、株主の皆さまの、より一層のご理解と、ご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役 執行役員社長 **片山 徹**





# 第51期(2007年3月期)の業績と今後の計画

第51期の業績

## 注力領域の増収効果が全体をカバーできず減収減益

売上高は前期比181億円の減収となり、経常利益も17億円の減益となりました。

売上高では、注力領域は期待には届きませんでした。12億円(前期比4%)伸長し、今後も数々の施策を展開し、伸びを加速させます。

従来の構造的減収要因であった保守/修理の減収は53億円となりましたが、06年3月期の減収115億円か

ら半減し、今後も、この傾向が続くことが予想され、修理サービスの大幅な減収はないと考えられます。

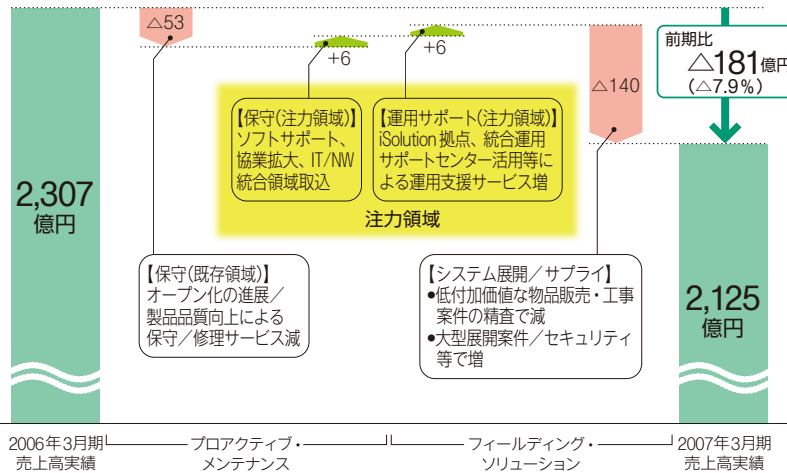
07年3月期の最大の減収は、システム展開/サプライ領域の140億円ですが、これは、日本公認会計士協会の「情報サービス産業における監査上の諸問題について」に定められた会計処理に準拠して商社取引の精査を行ったことによる一時的なもので、08年3

月期への影響は軽微と考えております。

経常利益では、売上が伸び悩む中、17億円の減益に留めることが出来たのは低付加価値な物品販売および工事案件が減少したことに加え、大型展開案件の内工化や保守部品費低減活動などの原価低減活動を積極的に行ったことによるものであり、08年3月期の増収による利益増への足固めが出来たと考えております。

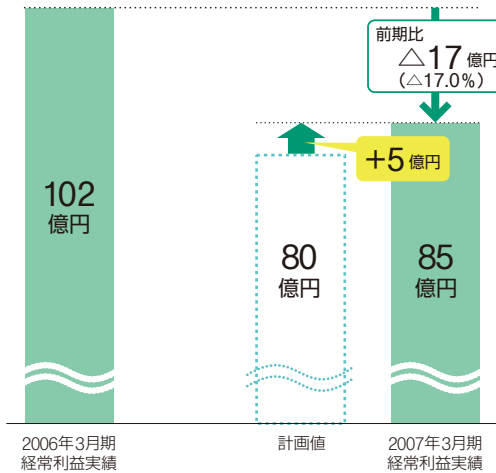
### 売上高増減要因

- 保守既存領域の減少は継続 (05年3月期→06年3月期 ▲115億円 → 06年3月期→07年3月期 ▲53億円)
- 注力領域で増収するもサービス事業、物品販売で減少



### 経常利益増減要因

- 原価低減活動の効果と注力領域での増加
- 売上減と投資関係費用増により減益



今後の計画

## 増収増益を目指した重点施策を推進

当社は、2008年3月期を増収増益へのターンアラウンドと位置づけ、堅実な成長の実現に向け、3つの事業戦略を基に施策を着実に遂行してまいります。

保守事業革新戦略の代表的な施策としては、POSやキーテレフォンシステムの保守や工事を行っている「NECインフロンティアシステムサービス株式会社」を子会社化し、統合

によりさまざまな面で効率化を図り、高品質なサービスを提供いたします。

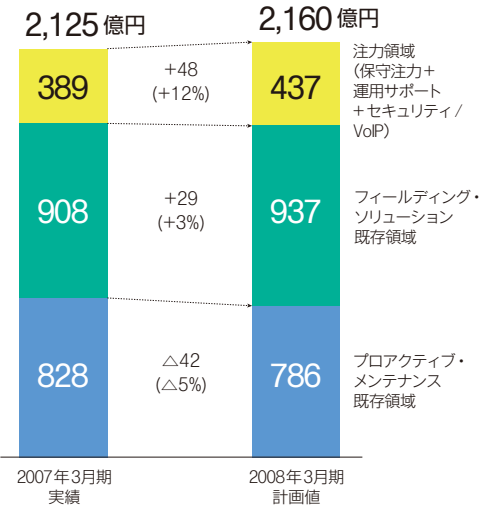
システムアフターサポート拡大戦略としては、コンピュータサプライ用品から一般的なオフィス関連商品を約1万7,000点品揃えし、お客さまがワンストップで購入できるWeb販売「い〜るでいんぐ」を立ち上げました。Webサポートデスクとして「ITよろず屋」を開設し、お客さまのIT関連で

の疑問点・問題点の解決を支援してまいります。

その他多くの施策を推進するとともに、CS向上とCSR浸透を推進する経営基盤強化戦略を展開し、2008年3月期は売上高2,160億円(前期比1.6%増)、経常利益90億円(前期比5.5%増)を目標としております。

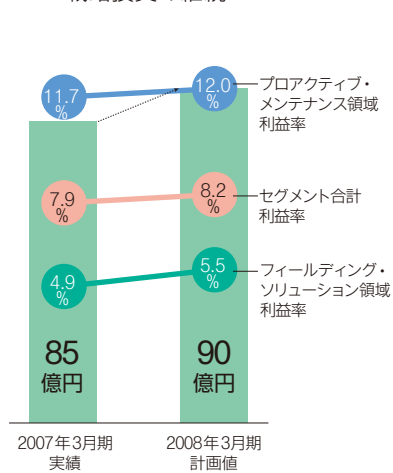
### 売上高計画

- プロアクティブ・メンテナンス既存領域の減収を注力領域と新規施策でカバーし増収



### 経常利益計画

- プロアクティブ・メンテナンスは営業利益率10%以上を確保
- フィールドイング・ソリューションは売上増と利益率改善で増益に寄与
- 戦略投資の継続



## 『日経コンピュータ』主催の「顧客満足度調査・システム運用関連サービス部門」でNo.1の評価

2006年8月

『日経コンピュータ』誌が行った「第11回顧客満足度調査」は、ハードウェア・ソフトウェア・サービスの3分野における主要製品・サービスへの顧客満足度をさまざまな角度から調査したものです。

当社はITコンサルティング/上流設計関連サービス、システム開発関連サービス、システム運用関連サービス、ネットワーク・サービスの部門からなるサービス分野において、「システム運用関連サービス部門」で1位となりました。

当社のサービスの中でも特に、「トラブル発生時の初期対応」「問い合わせへの対応」が高い評価を得ました。

## ソリューションプロバイダー顧客満足度調査「保守・サポート分野」で業界No.1の評価を5年連続で獲得

2006年10月

顧客満足度に関する調査・コンサルティングの国際的な専門機関である株式会社J.D.パワー アジア・パシフィックが実施した2006年日本ソリューションプロバイダー顧客満足度調査において、「保守・サポート分野」で5年連続の1位を獲得しました。同調査は、ソリューションシステムの保守・サポートおよび導入・構築の各分野におけるソリューションプロバイダーに対する顧客満足度を調べるものです。

これは、当社が1992年から一貫して取り組んできたCS向上活動をお客さまに評価していただいた成果と考えています。この評価を継続すべく、さらなる満足度向上を目指した取り組みを強化していきます。

出典：J.D. パワー アジア・パシフィック2002～2006年日本ソリューションプロバイダー顧客満足度調査<sup>SM</sup>。2006年調査は従業員100名以上の企業2,487社からの回答による。  
www.jdpower.co.jp



## 情報セキュリティに関するコンサルティングサービス「ISMS構築支援サービス」の提供を開始

2006年11月

企業や官公庁が総合的なセキュリティマネジメント体制を構築するためのコンサルティングサービス「ISMS (Information Security Management System: 情報マネジメントシステム)構築支援サービス」を商品化し、販売活動を開始しました。

企業は日本版SOX法を意識した内部統制強化を目的に、実現性の高い情報セキュリティ活動を求めています。本サービスは、このような課題に対応し、企業や官公庁がISMSを定着させることを支援します。また、ISMS構築に必要な各種コンサルティングサービスのみならず、情報セキュリティマネジメントの国際規格ISO/IEC27001の認証取得支援サービスなど、多様なニーズに対応しています。



## 中国現地法人を完全子会社化

2006年12月

コンピュータ・ネットワーク機器の保守などITサポートサービス事業に携わる中国の合弁会社「NEC飛鼎克信息技术服務(北京)有限公司」を、当社100%出資の完全子会社としました。

同社は当社と中国の北京致遠計算機網絡工程有限責任公司との合弁で2005年3月に設立し、中国に進出した日本企業を主要な顧客として事業を行っています。

このたびの完全子会社化で、同社の経営の自由度を高めるとともに、当社が日本国内で高い評価を得ているCSを基軸とした経営ノウハウやサポートサービスフォーメーションなどの技術力を同社に導入することが可能となります。

## 法人向け会員制インターネットショップ「い〜るでいんぐ」をオープン

2007年3月

オフィスに必要な商品を幅広く取り揃えた法人向け会員制インターネットショップ「い〜るでいんぐ」をオープンしました。コンピュータサブライ用品に加え、文房具や飲料品などオフィスで利用される約1万7,000点の商品を用意し、お客さまのワンストップショッピングを実現させます。

当社は2000年からWebサイト「ef-shop」でNEC純正商品を中心としたコンピュータサブライ用品の販売を行っており、会員企業も1,000社を超えています。 「い〜るでいんぐ」では品揃えを増やしたほか、お客さまごとの「マイページ」の提供や、問題解決デスク「ITよろず屋」を設置することで、個々のお客さまの利便性を大幅に向上させます。



51



期



の



ト



ビ



ッ



ク



ス



● 日興アイ・アール株式会社の「全上場企業ホームページ充実度ランキング調査 最優秀企業ホームページ」に選定

2006年11月

日興アイ・アール株式会社が行った「2006年度 全上場企業ホームページ充実度ランキング調査 最優秀企業ホームページ」に選ばれました。この調査はホームページの「分かりやすさ」「使いやすさ」「情報の多さ」の3視点で111項目を評価するもので、特に今回は「コーポレートガバナンス」に関する項目を大幅に追加しています。

当社は自社ホームページでの情報発信をCSR活動の重要事項の一つとしてとらえており、今後も迅速・正確・積極的な情報開示を行ってまいります。

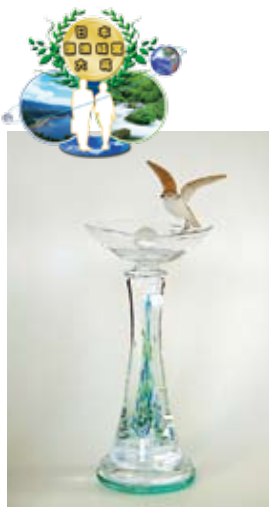


● 第5回 日本環境経営大賞「環境経営優秀賞」を受賞

2007年3月

当社は第5回 日本環境経営大賞「環境経営優秀賞」を受賞しました。同賞は、企業などの優れた環境経営の取り組みを表彰するため、三重県が実施しています。中でも「環境経営優秀賞」は、環境性・経済性・社会性において総合的かつバランスのとれた、持続可能性の高い経営につながっている組織が対象となります。

受賞理由は、環境マネジメントシステム(EMS)を構築し効率的に運用していることや、IT技術を活用した社用車の走行データの管理によるエコドライブの実践、情報通信機器の回収と再生使用、本業であるITサポートサービスを通して顧客のCO<sub>2</sub>排出量を削減したことなど、地球環境保護に向けた取り組みが評価されたものです。



● 自然災害への迅速な対応

2007年3月

2007年3月25日に発生した能登半島地震では、社内の災害対策規程に基づき、即時に災害対策本部を設置しました。災害対策要綱で定めた災害発生時の初動が敏速に行える社内の事前準備を基に、必要な部品を緊急手配し、災害地域外の拠点から約20名が被災地へ駆けつけ、ほとんどのトラブルを受付当日に復旧、3日間で計29件の対応を完了しました。

災害発生時におけるお客さま情報システムを早期に復旧させるための「コンピュータ安全対策マニュアル」に基づき、お客さまに対して提案やお願いを行うとともに、今後も突如の災害に迅速に対応し、全国のお客さまのシステム復旧に努めてまいります。



特集 FIELDING Close-up

お客さまとの最前線に立つ  
カスタマ・エンジニア(CE)の一日

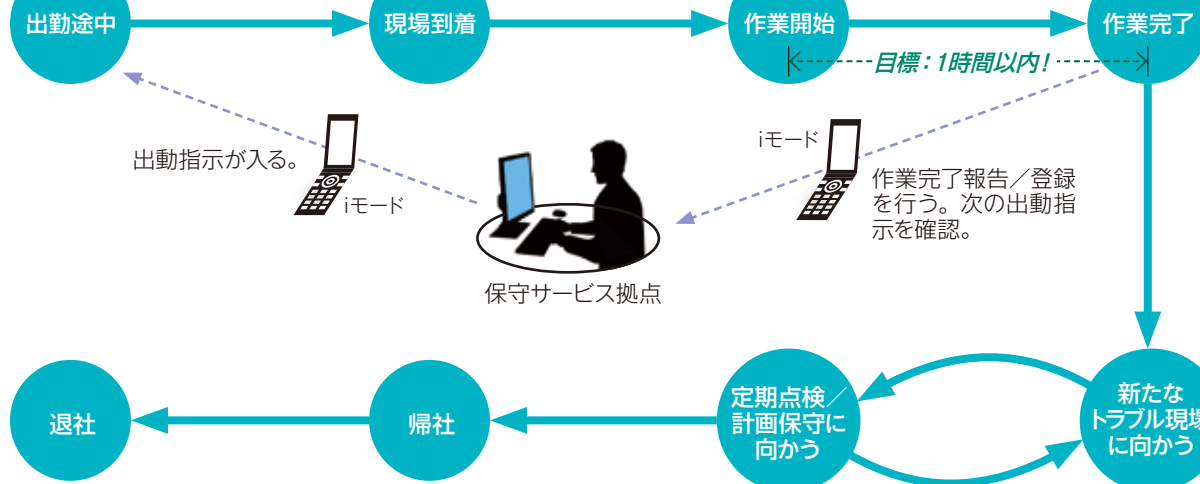
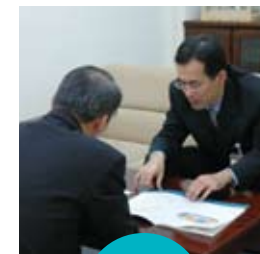
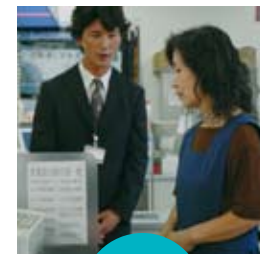
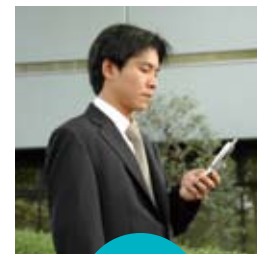
トラブルの復旧作業はもちろん日々お困りのことも解決します。

お客さま立ち会いのもとシステムの操作確認を行う。「作業報告書」を作成し、トラブルの原因、作業内容、防止策などをご説明し、お客さまの承認をいただく。消耗品の販売や日々の運用面での解決・提案活動も行う。

携帯電話のiモードにてお客さま情報・トラブル内容などを確認した後、お客さまへ電話連絡。①到着時刻 ②復旧見込時間をお伝えする。

まずは、お客さまへの挨拶。お詫びの後、①トラブル内容 ②状況の詳細確認 ③改めて復旧見込時間をお伝えする。

必要な部品は部品倉庫から既に到着済み。お客さまをお待たせすることなく、作業開始!



長い1日が終了。

今日1日の作業の報告・登録作業を行う。チェックシートにもとづき、上司と作業の不備な点、改善できる点を話し合う。お客さまのお困りの点、ご要望情報を「営業voice」に登録し、営業要員と一体となった活動をするなどCEの業務は幅広い。

技術力とコミュニケーション力を最大限に発揮し、きめ細やかかつ迅速・正確なサービスをご提供。

全般の概況

売上高は、協業による各種ベンダ機器に係わる保守サービスやソフトサポート／ITネットワーク領域、および運用サポートサービスで増収したものの、保守対象機種オープン化の進展や製品品質向上に伴う保守／修理サービスの減少に加え、低付加価値な物品販売および工事案件の精査を行ったことにより、前期比で減収となりました。

経常利益は、内工化促進や保守部材費用削減などの継続的な原価低減活動の効果が得られ、また付加価値の高い注力事業での増収により増益したものの、保守／修理サービスとコンピュータ用品を中心とする物品販売の減収による減益や投資関係費用の増加により、前期比で減益となりました。

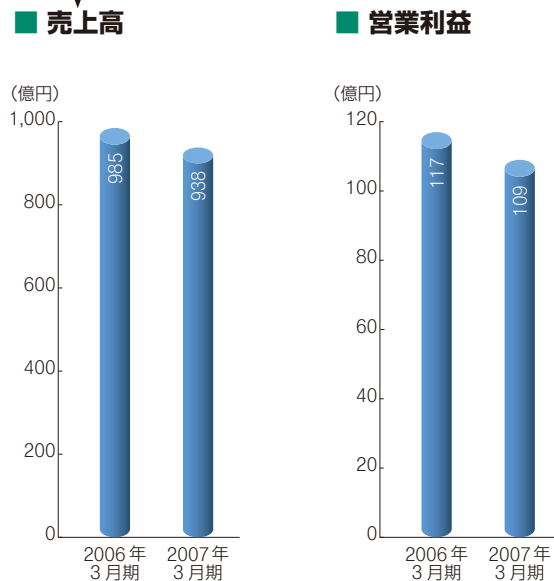
以上の結果、当連結会計年度の連結経営成績は、売上高2,125億95百万円(前期比7.9%減)、経常利益85億32百万円(前期比17.0%減)の減収減益となりました。

プロアクティブ・メンテナンス事業

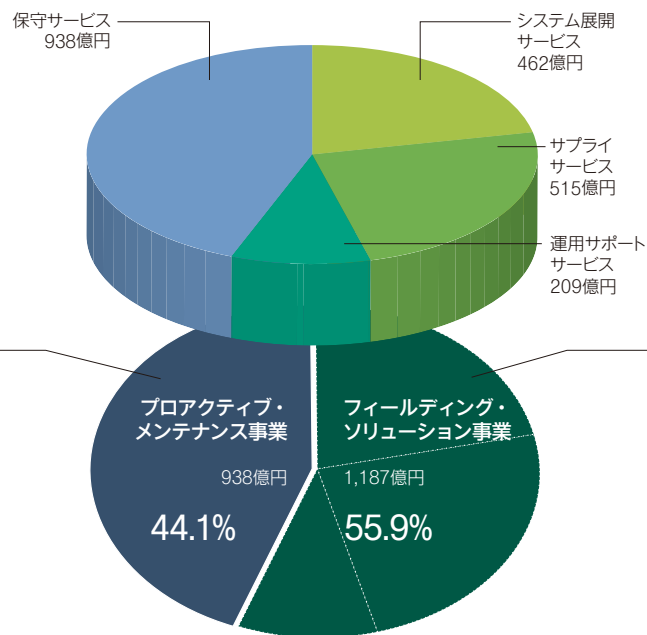
売上高は、ソフトサポートや協業による各種ベンダ機器に係わる保守サービスなどの注力事業領域での伸長と、保守対象機器のオープン化に伴う維持契約保守の減少、製品品質向上による修理サービスの減少があり、期初に想定していた範囲内でしたが、前期比で減収となりました。

営業利益については、継続して推進している保守部材費低減活動や部品修理の内製化による外注費削減などの効果は得られたものの、売上の減少見合いで前期比で減益となりました。

以上の結果、売上高は938億29百万円(前期比4.8%減)、営業利益は109億84百万円(前期比6.5%減)となりました。



■ セグメント・サービス別売上構成 (2007年3月期)



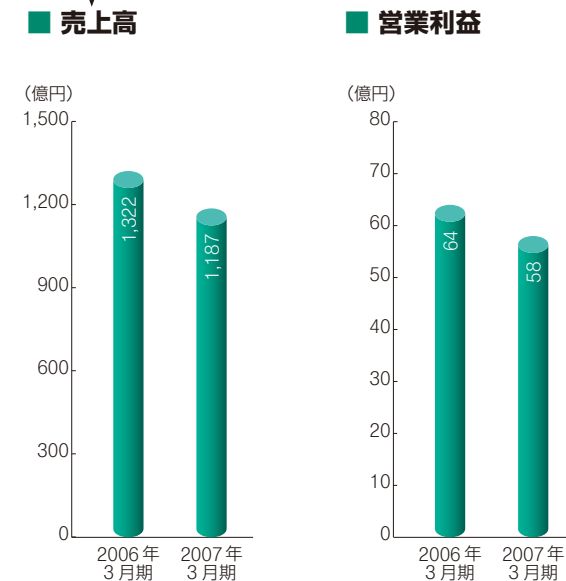
(注)営業利益は、プロアクティブ・メンテナンス事業およびフィールドイング・ソリューション事業ともに、当社の総務部門・経理部門などの一般管理部門に係る費用控除前の数値です。

フィールドイング・ソリューション事業

売上高は、注力してきた運用サポートサービスや、ニーズの高いセキュリティ領域などでは伸長しましたが、低付加価値な物品販売・工事案件の精査を継続したことが大きく影響し、前期比で減収となりました。

営業利益については、採算性重視の営業活動、内工化促進による外注費削減や原価低減施策の浸透、付加価値が高く利益率の高い注力事業領域の着実な成長がありました。システム展開／サプライの減収やIT投資に伴う減価償却費増などで減益となりました。

以上の結果、売上高は1,187億65百万円(前期比10.2%減)、営業利益は58億73百万円(前期比9.1%減)となりました。



# 連結財務諸表(要約)

## 連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

	前期	当期		前期	当期
	平成18年 3月31日現在	平成19年 3月31日現在		平成18年 3月31日現在	平成19年 3月31日現在
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>① 流動資産</b>	<b>101,102</b>	<b>99,121</b>	<b>② 流動負債</b>	<b>49,886</b>	<b>45,135</b>
現金及び預金	6,146	6,728	支払手形及び買掛金	34,756	29,343
関係会社預け金	5,528	11,000	未払費用	8,471	8,290
受取手形及び売掛金	56,056	49,090	未払法人税等	2,646	1,884
たな卸資産	24,743	24,309	その他	4,010	5,617
繰延税金資産	7,018	6,612	<b>固定負債</b>	<b>16,878</b>	<b>16,610</b>
その他	1,722	1,456	退職給付引当金	16,875	16,604
貸倒引当金	△ 113	△ 75	役員退職慰労引当金	1	1
			負ののれん	1	-
			その他	0	4
			<b>負債合計</b>	<b>66,764</b>	<b>61,745</b>
<b>固定資産</b>	<b>26,707</b>	<b>26,409</b>	<b>純資産の部</b>		
有形固定資産	4,838	4,462	<b>株主資本</b>	-	<b>63,776</b>
無形固定資産	5,688	4,553	資本金	-	9,670
投資その他の資産	16,180	17,393	資本剰余金	-	10,161
			利益剰余金	-	43,946
			自己株式	-	△ 0
			<b>評価・換算差額等</b>	-	<b>8</b>
			その他有価証券評価差額金	-	△ 1
			為替換算調整勘定	-	9
			<b>少数株主持分</b>	-	-
<b>③ 資産合計</b>	<b>127,810</b>	<b>125,530</b>	<b>④ 純資産合計</b>	-	<b>63,784</b>
			<b>負債純資産合計</b>	-	<b>125,530</b>
			<b>少数株主持分</b>		
			少数株主持分	50	-
			<b>資本の部</b>		
			資本金	9,670	-
			資本剰余金	10,161	-
			利益剰余金	41,154	-
			その他有価証券評価差額金	△ 2	-
			為替換算調整勘定	12	-
			自己株式	△ 0	-
			資本合計	60,994	-
			負債、少数株主持分及び資本合計	127,810	-

## 財務のポイント

### ■ 流動資産 ①

受取手形及び売掛金やたな卸資産の減少などにより、前期比19億円減となりました。

### ■ 流動負債 ②

売上高減少に伴う仕入高の減少により支払手形及び買掛金が減少したことなどにより、前期比47億円減となりました。

### ■ 流動比率 219.6% ① ②

前期比16.9ptの上昇となりました。

### ■ 自己資本比率 50.8% ③ ④

前期比3.1ptの上昇となりました。

### ■ 売上高 ⑤

保守対象機種オープン化の進展や製品品質向上に伴う保守/修理減に加え、日本公認会計士協会によるガイドラインに沿った、物品販売及び工事案件の商社取引の精査を行ったことにより、前期比181億円の減収となりました。

### ■ 経常利益 ⑥

原価低減活動の効果や付加価値の高い注力事業での増収効果による利益増がりましたが、物品販売の減収による減益や投資費用の増加により、前期比17億円の減益となりました。

### ■ 営業活動によるキャッシュ・フロー ⑦

税引前利益81億円の計上と運転資金増により89億円の資金増となりましたが、法人税等の支払が増加したため前期比では41億円減となりました。

## 連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

	前期	当期
	平成17年4月1日～ 平成18年3月31日	平成18年4月1日～ 平成19年3月31日
<b>⑤ 売上高</b>	<b>230,776</b>	<b>212,595</b>
売上原価	195,356	178,347
売上総利益	35,420	34,247
販売費及び一般管理費	25,413	25,996
営業利益	10,006	8,250
営業外収益	374	390
営業外費用	96	108
<b>⑥ 経常利益</b>	<b>10,285</b>	<b>8,532</b>
特別利益	99	200
特別損失	1,117	617
税金等調整前当期純利益	9,267	8,114
法人税、住民税及び事業税	3,534	2,585
還付法人税等	1,691	-
法人税等調整額	1,505	1,082
少数株主利益(損失:△)	△ 4	0
<b>当期純利益</b>	<b>5,924</b>	<b>4,444</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

	前期	当期
	平成17年4月1日～ 平成18年3月31日	平成18年4月1日～ 平成19年3月31日
<b>⑦ 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>13,111</b>	<b>8,916</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,652	△ 1,226
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,635	△ 1,633
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	△ 2
現金及び現金同等物の増減額	8,836	6,054
現金及び現金同等物の期首残高	2,838	11,674
現金及び現金同等物の期末残高	11,674	17,728

# 株式の状況

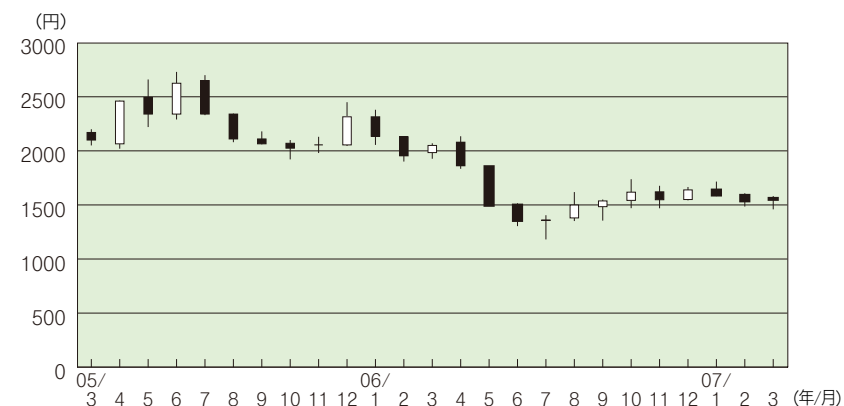
平成19年3月末現在の当社の株式の状況です。

- 発行済株式総数..... 54,540,000株
- 株主数..... 10,184名
- 主要株主(上位10名)

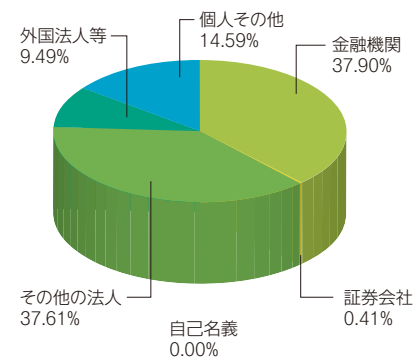
株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
1 日本電気株式会社	20,300,000	37.22
2 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・日本電気株式会社退職給付信託口) ....	16,300,000	29.88
3 NECフィールディング従業員持株会	1,658,400	3.04
4 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) .....	1,161,400	2.12
5 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) .....	887,500	1.62
6 ドイチェバンクアーゲー ロンドンビービー ノントリティー クライアーツ 613...	671,300	1.23
7 資産管理サービス信託銀行株式会社(年金信託口) .....	521,800	0.95
8 全国共済農業協同組合連合会	474,200	0.86
9 モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・インク .....	375,620	0.68
10 ドイチェバンクアーゲー ロンドンビービー アイリッシュ レジデント 619 ...	293,200	0.53

※少数特定者持株比率は75%以下です。

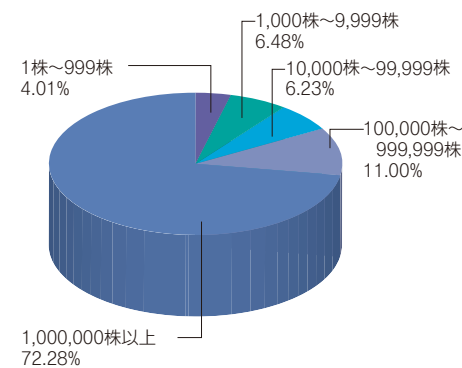
## 株価チャート



## 所有者別株式分布状況



## 所有株数別株式分布状況



# 会社概要

## 会社概要 (平成19年3月末現在)

- 商号..... NECフィールディング株式会社
- 本社所在地..... 東京都港区三田一丁目4番28号
- 資本金..... 96億7千10万円
- 代表者..... 代表取締役 執行役員社長 片山 徹
- 連結売上高..... 2,125億円 (平成19年3月期実績)
- 連結従業員数..... 6,343名
- 連結拠点数..... 414拠点
- 主要取引銀行..... 三井住友銀行 住友信託銀行

## 取締役および監査役 (平成19年6月20日現在)

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 代表取締役 ...片山 徹  | 常勤監査役 ...吉田 叔弘 |
| 取締役 .....八木 信人 | 常勤監査役 ...橋口 隆信 |
| 取締役 .....大森 祐三 | 社外監査役 ...板澤 幸雄 |
| 取締役 .....伊藤 雅明 | 社外監査役 ...池永 薫  |
| 取締役 .....高田 孝人 |                |
| 取締役 .....米沢 義博 |                |
| 取締役 .....菅野 栄  |                |
| 社外取締役 ...安井 潤司 |                |
| 社外取締役 ...森川 年一 |                |

## 執行役員 (平成19年6月20日現在)

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 執行役員社長.. 片山 徹   | 執行役員 ..... 荒木 輝彦 |
| 執行役員常務.. 八木 信人  | 執行役員 ..... 秋田 裕生 |
| 執行役員常務.. 大森 祐三  | 執行役員 ..... 保木本 誠 |
| 執行役員常務.. 伊藤 雅明  | 執行役員 ..... 栗山 道明 |
| 執行役員常務.. 高田 孝人  | 執行役員 ..... 黒部 幸次 |
| 執行役員常務.. 栗飯原 文一 | 執行役員 ..... 前川 和彦 |
|                 | 執行役員 ..... 宮本 高  |
|                 | 執行役員 ..... 米沢 義博 |
|                 | 執行役員 ..... 菅野 栄  |
|                 | 執行役員 ..... 伊藤 富雄 |
|                 | 執行役員 ..... 柳瀬 美行 |
|                 | 執行役員 ..... 花田 信夫 |

## アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまとのコミュニケーションを充実させていきたいと考えております。ぜひ、下記アンケートにご協力をお願い申し上げます。なお、ご協力いただきました先着500名の方に薄礼を送付させていただきます。

※ 株主の皆さまの個人情報およびアンケートの情報は集計資料として使用します。また、ご住所およびお名前は薄礼をお送りする際に使用します。

## 株主の皆さまへのアンケートのお願い

- Q1 どこで当社をお知りになりましたか?**  
お客さまとして 証券会社 新聞・雑誌記事  
ホームページ その他 ( )
- Q2 当社の株主になっていただいた時期はいつごろですか?**  
平成14年9月 平成14年中 平成15年中 平成16年中  
平成17年中 平成18年中 平成19年から
- Q3 本通信の内容はご理解いただけただけでしょうか?**

株主通信内容	理解いただけただけ	理解しがたい
トップメッセージ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
第51期の業績と今後の計画	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Fielding eye (トピックス)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
FIELDING Close-up (特集)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
業績の概況	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
連結財務諸表	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
株式の状況	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
会社概要	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- Q4 当社の株式を買い付けられた理由は何でしょうか? (複数可)**  
将来性 収益性 経営方針 事業内容  
株価の割安感 その他 ( )
- Q5 今後の当社株式にどのような方針をお持ちですか?**  
売却 長期保有 その他 ( )  
 上記方針を決定する判断材料は何ですか? (複数可)  
株価 配当 将来計画 業績  
株主優待  
その他 ( )
- Q6 当社からの情報取得方法は希望されますか?**  
ホームページ 郵便物 IR広告  
その他 ( )
- Q7 株主通信に希望するテーマなどをお聞かせください。**

ご協力ありがとうございました。

株主の皆さまからいただきました個人情報につきましては、当社の「個人情報保護方針」に基づき保護いたします。当社の「個人情報保護方針」につきましては、以下の URL をご参照願います。  
<http://www.fielding.co.jp/personal/index.htm>



料金受取人払

高輪局承認

7045

差出有効期間  
平成19年9月  
19日まで有効  
(切手不要)

郵便はがき

108-8790

111

東京都港区三田1-4-28  
三田国際ビル

NECフィールディング株式会社  
コーポレート・コミュニケーション部 行



ふりがな  
氏 名 性別 男・女

ご住所 〒 (都・道・府・県)

年 齢 19歳以下 20代 30代 40代 50代 60代 70歳以上

所有株式数 100株～299株 300株～499株

500株～999株

1,000株以上

点線を目安に添付のシールを貼ってください。

## 株主メモ

### ■事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

### ■定時株主総会

毎事業年度の終了後3カ月以内

### ■上場取引所

東京証券取引所(一部)

### ■基準日

●定時株主総会 毎年3月31日

●期末配当金 毎年3月31日

●中間配当金 毎年9月30日

その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

### ■公告方法

当社のインターネット・ホームページ  
(<http://www.fielding.co.jp/>)に掲載します。

### ■ホームページアドレス

下記のURLで、最新のIR情報を確認することができますので、  
ご利用ください。

<http://www.fielding.co.jp/ir/index.html>

### ■株式事務取扱場所

●株主名簿管理人

大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

●同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

●同取次所

住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

●各種照会先

(郵送物のご送付先)

〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(住所変更等用紙のご請求)

☎0120-175-417

(その他のご照会)

☎0120-176-417

[http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/  
service/daiko/index.html](http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html)

これからも、ずっと。 **FIELDING**

## NECフィールディング株式会社

コーポレート・コミュニケーション部

〒108-0073 東京都港区三田一丁目4番28号 三田国際ビル

TEL 03-3452-7093 FAX 03-5442-3682



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



大豆油インキで印刷しています。

